

# 徳法寺

## 住職に就任しました

杉谷 伊吹

こんにちは、今回は皆様へお知らせがあります。令和七年四月二十八日もちまして、父に代わって私が徳法寺の住職となりました。誤解の無いよう初めに伝えておきますが、父は普通に元気です。何かよくない出来事があったの、やむを得ない交代ではないという事です。

では何故住職を交代するのかという話になりますが、ひとことで言うと「みんなが元気なうちに交代しておきたいから」です。ここで言う「みんな」は、我ら杉谷家のみにあらず、徳法寺門徒の代表である「責任役員」及び「総代」の役員も含みます。これらの役員は任期三年で、今年の年末で満期となります。お元氣な限り継続して頂いておりますが、高齢や病氣、ご逝去などの理由により新しい方に役員をお願いすることもあります。住職交代の際には京都の本山に向いて、住職となるための研修を受ける必要があるのですが、役員の方にも一人または二人同行して頂かなければなりません。

この研修は、二泊三日の日程で行われ、講義や座談会などが組まれています。研修を受けるにあたって、本山に提出する書類に全役員の名刺や署名も頂かなくてはなりません。なので、役員の方々が皆様とおよそ元氣で、かつ研修に同行してくれる方が最低一人いらっしやる時だと、住職を交代しやすいのです。現役員の方々は、私が駆け出しの頃から特にお世話になってきた方ばかりですが、来期の続投が厳しい方もおられます。寺として今は一つの節目を迎える場面でもあると感じましたので、住職交代に踏み切ることとなりました。

さて、住職として寺の仕事である月参りや法要、通夜葬儀などの法務に一層励んでいきますが、自分の寺に閉じこもっているだけでは見聞が広がりません。そこで、ここ数年は金沢教区内の事業にも少しずつ参加するよう努めてきました。例えば、真宗の教えを学び確かめる「教学研究室」や、差別や平和に関わる様々な問題について考える「解放運動推進委員会」、若手僧侶有志の組織で、毎年夏に金沢別院で公開講座『聞』を主催している「仏教青年連盟」などです。学びと他の僧侶との交流の場を大切にするために、今後も出来るだけ参加していきたいと思っております。

現在私は三十一才、初めて月参りの法務に出た時から、もう十年以上経ちました。温かい縁を頂いた門徒の方々のお見送りの、すでに結構な数となっております。そんな経験を経て思うことは、日々出来ることはなるべく後悔しないようにこなしてゆこう、

という事です。不確定な未来を前にして私にできることは限られていますので、自分の力量の範囲で最も良いと思った方向に進んで行きます。その結果が失敗や間違いだったとしても、それを糧にして、これまで受けてきた恩に背中を押され、出来る限りのことをするのが人生なのだろうと思います。このような思いを以って、此度住職交代に至りました。これから何卒よろしくお願い致します。



徳法寺前にて

# 大震災のあと

## 私たちを支えてくれた

### 「つながり」

NPO法人 夢かぼちゃ代表 井上 治

夢かぼちゃは「輪島市手をつなぐ育成会（知的障害のある子を持つ親の会）」が中心になって設立したNPO法人です。

「地域に花を咲かせよう」のスローガンの下、障害のある人もない人も暮らしやすい地域づくりの拠点として活動してきており、地域に住む障害のある方、お年寄り、子供たちなどが気軽に集まれるコミュニティカフェのような場所です。

昨年起きた、これまでに経験したことのない震度七という地震では、ド・ドーンという轟音とともに自宅周りの大地が波打ち、私も住宅が倒壊する様子を目の当りにしました。

地震発生が元旦でしたから、多くの方が自宅で過ごしていたらっしゃいましたが、直後に津波警報が出ましたので、一旦は神社などの高台へ逃げた後、公民館や学校などに避難いたしました。スタッフの一人は輪島から帰宅途中で地震に会い、道路の決壊により山中で孤立してしまいましたが、二日後に自衛隊に救助され無事に帰ることが出来ました。

夢かぼちゃの利用者たちは当初「地域の避難所です方」、「金沢・加賀方面への二次避難していた方」、「のと空港で被災したため、一緒にいた出産を控えた妹と共にヘリコプターで避難し、その後県外へ移られた方」、「てんかんの発作など大勢の避難者の中でうまく過ごせず、被災した自宅で住むことを余儀なくされた方」など、それぞれ置かれた状況こそ違いましたが、大変困難な状況にありました。避難所では、十分な食事や自衛隊による入浴サービスが始まりましたが、密集・密接な環境により新型コロナウイルスやインフルエンザの感染が広ってしまうこともありました。

徐々に利用者さん達が自宅に戻り始めたので訪問してみますと、時間をもてあましている様にみえました。そこで「早く施設を再開してみんなの居場所を作ろう」と思い、三月下旬に建物や設備の応急修理を終えて、四月一日には施設の一部再開にこぎつけました。久しぶりにみなさんが再会し沢山の笑顔を見ることが出来、大変うれしく思いました。

三月以降、金沢にある「ひまわり教室」の徳田さんを始め多くの団体から支援を頂きました。徳法寺でも開催されました写真展「のとからの風」にも参加し、トートバッグなどの制作・販売もしました。

四月後半からは、東京ボランティア市民活動センター・災害協働サポート東京・都庁の三者合同主催による「ふれあい喫茶」が、毎週金曜日に開催されるようになりました。そこでは利用者がウェイトレスなどをする事で「ふれあいとつながりの大切さ」を実感しながら忙しい日々を送りました。

そのような中、九月二十一日の奥能登豪雨災害が発生し、利用者が住んでいた仮設住宅をはじめ、多くの方が浸水被害に遭いました。支援スタッフの何人も、家が流木の被害を受けたり床上浸水したりしたことで一時県外に避難したため、スタッフ不足となり施設の運営が困難な状況になりました。

しかし、多くの団体から更なる支援を頂き、被災者支援NPO法人「ゆめ風基金」からの支援で購入した車両を使って、十月から週三回「入浴・買い物」の支援を行っています。

これまで、沢山の支援を受けながら乗り越えて来ましたが、それぞれの家庭や施設が災害に対応できる準備をしておく必要があることを痛感いたしました。また支援を有効に生かすには、受ける側の能力が必要（受援力）であることも学びました。

終わりに、皆様方の多くのご支援に深く感謝を申し上げます。有難うございました。



禅の里交流館「ふれあい喫茶」にて

特定非営利活動法人 夢かぼちゃ

石川県輪島市門前町走出六40番地1

# 良い違和感

杉谷 ゆみ

サカナクシヨンのボーカル、山口一郎さんがインタビュなどで話されるときによく使う言葉「良い違和感」。「違和感」と聞くと否定的な意味合いを感じますが、「良い違和感」は、今までになかった新しい感覚の発見を表現していると思います、私にはとても好きな言葉です。初めてこの言葉を聞いたとき、サカナクシヨンの音楽を聴いていたときに感じていた感覚はこれか！と衝撃を受けました。

サカナクシヨンについて紹介させていただくと、二〇〇五年から活動しているロックバンド、三十代から四十代を中心に人気です。有名な曲は紅白歌合戦でも歌われた「新宝島」です。バンド名「サカナクシヨン」は「魚」と「アクション」の単語を組み合わせた造語。山口一郎さんはインタビュで、ひねくれたこと、いい意味でふざけたことをやりたくて、バンド名にはあまり用いられない「サカナ」を入れ、変化を恐れずにやっつこうという意味をこめて「サカナのアクションでサカナクシヨン」にしたという趣旨を述べています。

サカナクシヨンの音楽は唯一無二だと思っています。彼らにしか出せない音、文学的な歌詞や音響へのこだわりを持ち、二〇一九年に全国アリーナにて6・1chサラウンドシステムを導入したライブツ

アーを実施。通常のライブではスピーカーが前方しかないのですが、6・1chサラウンドシステムは全方向にスピーカーを配置して音を立体に体感できるような演出。実際にライブに行ったのですが、音の前から後ろ、後ろから前、左右に動いたり、音がぐるぐる回って聞こえたり、振動が全身にまで伝わって、「何だ、これは!!」と驚きと不思議な体感で、これが良い違和感か！と感動したのを覚えています。

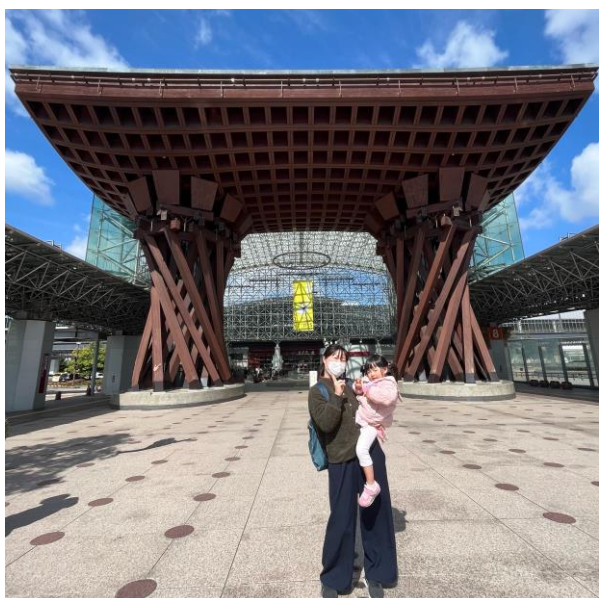
山口一郎さんは、音楽を製作するときにはこの「良い違和感」を意識しているそうです。そのきっかけについて、二〇一九年六月五日、TBSのNEWS 23で放送されたインタビュの中で、次のように話していました。

『四足歩行ロボットを研究者が性能を確かめるために蹴り飛ばしたんですよ。ロボットは蹴り飛ばされても倒れないように踏ん張って、踏ん張りながらもまた前に戻って歩いて行くという映像を見たときに「かわいいそう」と「すごい」っていう感情が同時に起きたんです。「かわいいそう」と「すごい」って、今まで同時に起きたことがなかったから、新しい感情だなんて思ったんですよ。新しい感情を發明するには、混ざり合わないものを混ぜ合わせた「良い違和感」がないと、人に引かからないと思うんですよ。僕はそういった感情と感情の交ざり方みたいなものを音楽で作れたらいいなと思っています。喜怒哀楽以外の新しい感情を發明するのがテーマです。』

音楽に限らず、クリエイティブな仕事をしている人にとって「良い違和感」は重要な要素となると思

いますが、実は、私たちの日常生活の中にもしばしば見られることではないでしょうか。例えば、金沢駅にある『もてなしドーム』と『鼓門』。完成当初は、駅に何でこんな物作ったんだと批判的な意見もあり、違和感を覚えた人もいたと思います。しかし近代的なガラス張りのドームと伝統的な雰囲気の木造建築の門という、混ざり合わないものが混ざり合い「良い違和感」となり、今では金沢駅のシンボルとなっています。

音楽を聴く時、絵画や芸術作品を観る時、日常生活の中でも何か引かかると、今までにない感覚だな、と思ったら、それはまさに「良い違和感」に気付く瞬間です。皆さんも是非、体感していただけだと思います。



かわよけ しずか  
河除 静香 一人芝居 &

トークイベント

六月十五日(日)

午後一時半開場

二時 演目『パンダのパン屋さん』  
二時半 トークイベント  
三時十五分 演目『華』  
四時 交流会

会場 東別院 真宗会館1階ホール  
主催 真宗大谷派金沢教区「心の相談室」

河除さんは「顔面動静脈奇形」という難病により、生まれながらに鼻と上唇に変形があり、いじめや心ない言葉に悩んでこられました。二〇二一年に続いて二回目の公演となります。経験をもとにつくられたお芝居は、私たちに勇気を与えてくれます。参加費は無料です。どなたでもお気軽にご参加ください。

河除 静香  
一人芝居 & トークイベント

神事は、歴史や文化を伝える場、さらには思いやりの大きな水母により、多くの人が抱えていることとしていた言葉がかわよけになりました。このことは、私たちが、考えていないような明日が訪れるかもしれないということも、改めて教えてくれました。コロナ禍の中の2021年にあって、2回目となる河除静香さんの一人芝居とトークイベントを行います。劇に大きな関心をもちながら、演劇を受け入れられる方からいらしていただくことは、私に大きな励みを与えてくれます。少しでも多くの方、前をしっかりと見て歩んでいけるようになることを願っています。

日時： 6月15日(日) 開場 午後1時半  
午後2時 演目『パンダのパン屋さん』  
2時30分 トークイベント  
3時15分 演目『華』  
4時 参加者との交流会

会場： 金沢東別院 真宗会館1Fホール  
東別院内駐車場がご利用いただけます  
参加費及び駐車料は無料です

問い合わせ： 076-241-5219 徳法寺 杉谷 まで



かわよけ しずか 1975年生まれ 富山県高岡市在住

『顔面動静脈奇形』という難病のため、生まれつき鼻と上唇に異常があり、いじめ、差別、ひどく見られる…などの「見た目の問題」の当事者。

2011年に『Only Tomorrow ~ 北陸から見た日問題を考える ~』を生ち上げ、見方を変えていくことができない人生、笑顔の明日を目指して交流会やイベントを開催。2014年からは一人芝居を始め、その場がシアターに変わっていき、現在は当事者としての思いを伝える講演活動を各地で行い、その中で一人芝居もしている。活動のテーマは『華』と『華』の『パレバタ』にも出演。

主催： 真宗大谷派金沢教区 心の相談室

徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺前任職 杉谷 浄

五月 足利仏教十 御伽草子2  
六月 足利仏教十一 戦国大名の登場  
七月 足利仏教十二 臨濟宗

それまで上流社会のものであった様々な文化が民衆の中にも流れ込んできました。これが御伽草子(室町物語)に代表される大衆文化です。経済力に加えて武力も手に入れた民衆は、一揆や下剋上を起します。このような身分社会の崩壊をきっかけにして戦国時代が始まります。

この時期、最も権力者に重用された宗派が臨濟宗でした。金閣寺や銀閣寺、東福寺、龍安寺など、京都の主だった観光寺院はこの頃に創建された臨濟宗寺院です。

参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご参加ください。

前回の寺報(第23号)の「忌中と喪中」の中にありました「七七日(しじゅうくにち)」を「しじじゅうしちにち」と誤解して読んでしまうところのご指摘がありました。「七七日」と書いて「しじじゅうくにち」と読み、期間は亡くなった日を含めて四十九日間です。日本の伝統的な表現ですのでご了承ください。

徳法寺 報恩講案内

六月二十九日(日)

午後一時より 正信偈のお勤め

草四句目下「弥陀成仏のこのかたは」次第六首

午後一時半より 法話 木越 祐馨氏

輪島市門前にある光琳寺の住職を務めながら、文化財保護や歴史研究者としても活躍なさっています。昨年の地震・水害のお話もしていただきます。

午後三時より 講演 奥田 宏氏

ひろメンタルクリニックの院長をなさいながら、依存症患者の再発防止に取り組んでいらっしやいます。今回はギャンブル依存症についてのお話です。

2025年徳法寺報恩講のご案内

開催日 6月29日 日曜日

午後1時より 正信偈のお勤め  
草四句目下「弥陀成仏のこのかたは」次第六首

午後1時半より 法話 輪島市門前 光琳寺住僧 木越祐馨氏  
木越先生は、石川県立図書館史料編纂室『加能資料』編纂に専事し、現在輪島市門前の真宗大谷派寺院で住職を務めながら、輪島市及び七尾市文化財保護審議会委員、加能地域史研究会代表として活躍なさっています。昨年の地震、水害の被災の経験についてもお話していただきます。

午後3時より 講演 ひろメンタルクリニック院長 奥田宏氏  
金沢大学医学部卒業後、石川県立高松病院、谷野長崎病院勤務を経て、平成13年から、金沢駅西でひろメンタルクリニックを開設なさいました。日本アルコール関連問題学会理事、全日本断酒運動顧問をなされている他、サプリメントとよばれる方引き増強からの回復や再発防止にも取り組んでいらっしやいます。今回は、昨年から話題となっているギャンブル依存症についてお話していただきます。

著書『ジャンクへようこそ! 双極性障害の世界(風和書店・翻訳)』、『サプリメント・方引き増強からの回復 ただで失敗してしまう人たちの理解と再発防止エクササイズ(風和書店・監修・翻訳)』、『今ここに神はいない!米海兵隊員が見た最前線の地獄(拓真書院・翻訳)』他多数。

例年通り、今年も社会福祉法人「ひびき」が、お茶-ラーメン-家舗などの販売をいたします。

表題揮毫 中田 八千代  
徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号  
TEL 076(241)5219  
ホームページ <http://tokuhou-ji.com>